

はちだいにんがく
八大人覺



- お釈迦さまが八十歳で亡くなられたその時、弟子を集めて説いたとされる八つの仏則が「八大人覺」である。その教えとは、
- 一、少欲(しょうよく)・・・欲には限度を持つこと
 - 二、知足(ちそく)・・・足るを知ること
 - 三、遠離(おんり)・・・喧嘩を離れ己を見つめること
 - 四、精進(しょうじん)・・・休まず続けること
 - 五、正念(しょうねん)・・・利害を考えないこと
 - 六、定(じょう)・・・心ひとつに集中すること
 - 七、智慧(ちえ)・・・耳に聞き、心に思い、身に修めること
 - 八、不戯論(ふげろん)・・・無駄な議論は慎むこと
- この八つの戒めを師と思ひ精進を積み、心安らかな日々を過ごすことができる。



歴史と文化を伝える商家の町



町と住民が一体となって支える町並み保存活動

江戸時代以降、和紙と木鐮生産で全国に名をはせた内子。大正期には木鐮は衰退するが、繁栄を極めた当時の町並みを保存するために始められたのが、町と住民とで支える町並み保存活動である。昭和五十七年(一九八二年)、国選定の重要伝統的建造物群保存地区に指定された内子町八日市護国地区には、時代を彷彿とさせる町屋の風情が残されている。

保存地区に今も残る

伝統的家屋と資料館
六百メートルほど続く長い通りの道沿いには百軒以上の家々が連なり、そのほとんどが漆喰とナマコ壁、出格子を用いた伝統的な町屋の家屋である。

約三・五ヘクタールの町並み保存地区内には、国の重要文化財に指定されている、内子最大の木鐮業者の豪邸や、かつての旧家を造り替えた博物館や資料館、今も昔ながらの製法で木鐮を製造販売する老舗ロウソク店のほか、当時の一大娯楽場でもあった芝居小屋等々の貴重な建物が残り、往時の賑わいを偲はせる。



商いと暮らしの博物館
明治初期の薬商を修復し、大正時代の商いと暮らしの様子を再現した博物館(開館：9時～16時半、料金：大人200円・小人100円)

現在も上演されている本造劇場

内子座
大正五年(一九一六年)、大正天皇即位を祝って建立された芝居小屋。当時は歌舞伎や浄瑠璃、落語などが上演され、大いに賑わった。しかし老朽化が進み閉鎖。後に修復され、昭和六十年(一九一六年)から再開。今でも年間八十日近くは公演が行われている。

二百年の伝統を守り続ける和ロウソクの店

約四十五度に溶かした木鐮を素手ですくい上げ、灯芯に何度も回しかけながら仕上げる和ロウソク。その伝統技法を二百年以上守り続けている、内子で唯一残る和ロウソクの店。店内の工房では、六代目自らが制作する作業風景を見学することができる。

内子最大の木鐮業者 芳我弥三右衛門の邸宅

国の重要文化財に指定される本芳我邸は、内子に木鐮生産の基礎を築いた豪商、芳我弥三右衛門の邸宅である。建物は明治二十二年(一八九九年)、漆喰とナマコ壁の土蔵を左手に、母屋もコテ絵で仕上げた懸魚(げぎよ)や鬼瓦など、見事な装飾が施されている。



コテ絵で仕上げた鶴の懸魚と立派な鬼瓦

■庭園のみ公開 9:00~16:30
■料金 無料



取材協力：大森和ろうそく屋

■営業時間 9:00~17:00
■定休日 月・金



■開演時間 9:00~16:30
■入場料 大人300円/小人150円

